



11月図書館企画 作品特集

「2021年発表新刊図書展」

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー1・2巻」
ブレイディみかこ著

今年一番と言っていいほど泣いて、笑って、感動した話題作。

読んだら誰かと話したくなる、一生モノの課題図書。

子どもから大人まで学ぶことの多い本です。

ぼくとパンクな母ちゃんは、ともに考え、ともに悩み、毎日を乗り越えていく。最後はホロリと涙のこぼれる感動のリアルストーリー。

事件続きの暮らしの中で、少年は大人へのらせん階段を昇っていく。

親子の成長物語、ついに完結。

「聖域」 コムドット・やまと著

夢も経験も人生も全部、自分だけのものだ。

コムドット・やまとの燃える哲学。

「何かをやりたいかも」と思った時の選択肢は常に1つ。

周りがくだらない意見をしてくるよりも、

弱い自分が言い訳を探すよりも前に行動する。

悩む時間を動く時間に変えた瞬間に、人生が変わる。

「どうやら僕の日常生活はまちがっている」 岩井勇氣著

喉に刺さった魚の骨に悶絶するやいなや、スピーチを頼まれた同級生の披露宴をすっぽかす。地球最後の日に食べるものをひたすら想像しながら、寅さんの映画に突然涙する。あの不敵な笑みを浮かべながら、ハライチ岩井が平凡な毎日に一撃を食らわせる。



2021 第75回読書週間

10月27日(水)～11月9日(火) 14日間

今年度も読書週間が始まります。

食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋・そして、読書の秋！

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割をはたすことは

かわりありません。

暮らしのスタイルに人生設計のなかに、

新しい感覚での「本との付き合い方」をとりいれていきませんか。



標語「最後の頁を閉じた 違う私がいた」



新庄北高最上校図書館 11月開放カレンダー

11月図書館企画 作品特集「2021年発表新刊図書展」

「第75回読書週間 10月27日～11月9日」

日	月	火	水	木	金	土
	1	②	3 文化の日	4	5	6
7	8	⑨	⑩	11	12 代休	13
14	15	⑬	⑭	16	17	18
21	22	23 勤労感謝の日	⑳	24	25	26
28	29	㉑				

※○数字の日が開放日です



2021年 発表新刊図書展



「おまえなんかに会いたくない」 乾ルカ著

「岸本李矢さんを覚えていますか」という、謎めいた書き込みが波紋を呼ぶ。それは、いじめが原因で転校していった生徒の名前だった。新型感染症で激変する世界の中、近づく同窓会。そして「岸本李矢」がタイムカプセルに入れたものとは!? 青春群像劇の傑作。

「オーラの発表会」 綿矢りさ著

人を好きになる気持ちがいらないんです。海松子大学一年生。他人に興味を抱いたり、気持ちを推しはかったりするのが苦手。友達はまね師の萌音、一人だけ。なのに、幼馴染の同い年男子と、男前の社会人から、気づけばアプローチを受けている。不器用で愛おしい、恋愛未満小説。



「みとりねこ」 有川浩著

7匹の物語。時間は有限。出逢いは無限。猫の浩太は、一家の長男・浩美と生まれたときからずっと一緒。もう二十歳を超えるけど、年齢を感じさせないピカピカの毛並みがご自慢。いつも醤油にひたした肉球でテーブルクロスにハンコをペタペタ。念入りの肉球ハンコのわけは? きっとあなたの宝物になる物語。

「廃遊園地の殺人」 斜線堂有紀著

プレオープン中におきた銃乱射事件のため閉園に追い込まれたテーマパーク・イリュージョンランド。招待客たちは宝探しをはじめますが、翌朝串刺しになった血まみれの着ぐるみが見つかる。止まらない殺人、見つからない犯人、最後に真実を見つけ出すのは?



「さよならも言えないうちに」 川口俊和著

『コーヒーが冷めないうちに』から、ついに、3年ぶりのシリーズ新刊が発売です。「最後」があるとわかっていたのに、なぜそれが「あの日」だと思えなかったんだろう。あの日に戻れたら、あなたは誰に会いに行きますか?

「ブレイクニュース」 薬丸岳著

ユーチューブで人気のチャンネル「野依美鈴のブレイクニュース」。児童虐待、8050問題、冤罪事件、パパ活の実情などを取り上げ、マスコミの真似事と揶揄する意見がある一方で、美鈴の魅力的な風貌も相まって、動画の視聴回数は一千万回を超えることも。年齢・経歴とも不詳、ジャーナリストを名乗る彼女の正体を探るべく、週刊誌記者の真柄新次郎は情報を収集し始める。すると彼女の過去が見えてきて?

「月曜日の抹茶カフェ」

川沿いの桜並木のそばに佇む喫茶店「マーブル・カフェ」。そのカフェが定休日の月曜日に、一度だけ「抹茶カフェ」を開くことに。人は知らず知らずのうちに、誰かの背中を押していることに気づく、一杯の抹茶から始まる、東京と京都をつなぐ12ヵ月の心癒やされるストーリー。

「霧をはらう」 雫井脩介著

病院で起きた点滴死傷事件。入院中の4人の幼い子どもたちにインスリンが混入され、2人が殺された。逮捕されたのは、生き残った女兒の母親。人権派の大物弁護士らと共に、若手弁護士の伊豆原は勝算のない裁判に挑む! 弁護士の信念とは?

「巨鳥の影」 長岡弘樹著

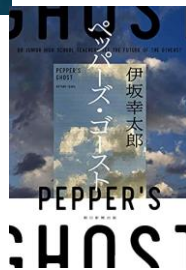
人間の心の揺れやゆがみ、隙間をついたトリック、どんでん返しの妙。昆虫や動物など「いきもの」がからむ挑むミステリ。生活のなかで、ふとした心の隙間に忍び込む殺意や悪意が、蟻や、鳥、魚、犬、プラナリアなど、さまざまな生物と絡んだ事件。

「ガラスの海を渡る舟」 寺地はるな著

みんなと同じ事ができない兄と、何もかも平均的な妹。ガラス工房を営む二人の10年間の軌跡を描いた傑作長編。

「ペッパーズ・ゴースト」 伊坂幸太郎著

少しだけ不思議な力を持つ、中学校の国語教師・檀と、女子生徒の書いている風変わりな小説原稿。生徒の些細な校則違反をきっかけに、檀先生は思わぬ出来事に巻き込まれていく。



※ぜひ、図書館へ